

『メディアから環境を考える』

学校名・名前・担当教科：明石市立野々池中学校 奥内 正浩（英語科）
実践教科：総合的な学習の時間
指導時数：8時間
対象学年：中学3年生 対象人数：39人

< 教師海外研修を通して感じたこと >

今回の研修に参加するまで、隣国でありながら中国へは一度も訪問したことがなかった。マスメディアから報道される内容などから、偏った見方をしていたように感じた。日本には中国の製品があふれ、逆に日本の製品も中国へ輸出されている。また、多くの日系企業が中国へ進出している。今後ますます、経済的に協力し合って互いの国が発展できたらと思う。また、過去の不幸な歴史を繰り返さないためにも、より友好的な関係を構築できたらと感じた。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

自転車、北京オリンピック、上海万博、食の安全、環境、人権など、さまざまな話題が、テレビ、新聞、インターネットなどを通じて流れている。

様々な情報が流れる中で、マイナス的なイメージの方が強く残っている。今回が中国への初訪問というのも、そのような理由からかも知れない。

中国にルーツを持つ生徒が在籍する年度もあるが、文化や思想の違いなどあまり気にせず接していたように思う。

AFTER

メディアリテラシーについて考えるようになった。情報を発信する側の意図や、その情報の出所なども確認し、あいまいな情報から誤った認識をしないようにと心がけるようになった。また、街を走る大量の自転車は北京では過去のものとなっており、過去のことが現在でも続いているという思い込みも多く見られた。経済面、技術面では多くの発展を見せた中国であるが、社会福祉、環境問題では、支援を必要としていることがわかり、中国への ODA の必要性を感じた。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

平成 20 年度より、総合的な学習の時間（野々池タイム）のテーマを、「環境」に設定して学校で学習に取り組んでいる。平成 20 年度に G 8 首脳会議が北海道で、環境大臣会合が兵庫県で開催されたことがきっかけである。当時は化石燃料価格が高騰し、資源の大切さ、自然環境を保護について考えた。それから 2 年が経過し、化石燃料も当時ほど高騰しておらず、また、環境保護の意識も薄れつつある。

今回、教師海外研修で視察した、中華人民共和国の内モンゴル自地区の砂漠化と、植林活動を題材に取り上げ、本校の環境学習の一部に取り入れた。今回、初めて中国を訪問し、自分の持っている中国のイメージと、実際とは大きくかけ離れたものであった。それは急速に中国が発展しているのに、自分の見方が変わっていなかったことと、日本のメディアの中国の捉え方にも原因があるのではと考えるようになった。

近年、ICT の発達に伴い、テレビ、インターネット、雑誌、新聞など非常に多くの情報があふれている。対中国に対してもいろいろなニュースが氾濫しているが、どちらかといえば、マイナスイメージを与えるものが多いように思われる。それは、人々の関心が、とりわけそのような題材に対して関心が強いため、そのような出来事ばかりが起きているわけでもないと思う。

今回の学習を通じて、教師や講師提示した資料だけでなく、新聞、インターネット、書籍なども活用し、情報化社会で生きる人間として、うわさや偏見で物事を見ず、様々な情報に対して批判的に見つけ、科学的に正しい知識を得る手段を身につけさせたいと考える。

また、プレゼンテーション力を身につけさせ、他人に自分の思いを正しく正確に伝えさせる技術と態度を養いたい。特に今回の学習では、他のクラスは、このテーマでは学習しておらず、他のクラスの生徒に、自分たちが学んだことを ICT 機器などを活用しながら、わかりやすくプレゼンテーションし、学びを共有させたい。

そして、自然と共生するためにできることを机上の学びで終わらせず、日々の生活の中で実行させていきたい。

～ 評価について ～

本学習は、総合的な学習の時間で実施した。自己評価カードを作成し、授業ごとに自己評価させた。3行コメントの欄を作り、生徒の気づきなどを書かせ、生徒に意識化させるとともに、教師側の授業のフィードバックとして活用した。新聞スクラップ発表会、プレゼンテーションでは相互評価も行い、生徒たちにただ聞かせるのではなく、ポイントを提示し評価させた。

10/12			
中国の環境問題	内容が理解できた	1 2 3 ④	
中国の自然保護の取組み	内容が理解できた	1 2 3 ④	
インターネット検索	正しく検索できた	1 2 3 ④	
新聞記事を読む	記事をまとめられた	1 2 3 ④	
学習への意欲	前向きに取り組めた	1 2 3 ④	
コメント			
<p>初めて、中国にはこんな環境問題があるんだということを知りました。 インターネットは便利だけど、ネットトラブルが起こるし怖いと思います。</p>			
自然エネルギーの利用	内容が理解できた	1 2 3 ④	
新聞スクラップ (宿題)	きちんとできた	1 2 3 ④	
プレゼンテーション作成	役割分担がきちんとできた	1 2 3 ④	
学習への意欲	前向きに取り組めた	1 2 3 ④	

生徒の自己評価カード

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
学年集会 環境問題について考える (学年集会形式で実施)	テーマ決定(6つの中からクラスで1つ決定) ・Eco アイデアの製品作り パナソニック(株) ・ウミガメ保護活動 明石市土木部海岸課 ・環境を意識した道路づくり 国土交通省兵庫道路事務所 ・河川の生物 明石工業高等専門学校 ・メディアから環境を考える 共同通信社 神戸支局 ・ダンロップ環境教室 NPO 環境21住友ゴム工業 (タイトルはいずれも仮題) (集会で内容を説明し、クラスでテーマを設定)	DVD パワーポイント
1時限目 環境問題について考える (中国から) (クラス単位で実施)	・中国についての学習(地理・人口・産業など) ・環境問題 ・自然保護に取り組む人 ・インターネット検索 ・新聞等から環境について考える (スクラップの練習) ・スクラップの役割分担	・自作プレゼン ・内モンゴル砂漠化 ・植林活動 ・ノートPC6台 ・朝日新聞特集号 ・新聞・インターネット 書籍などの活用
2時限目 地球に優しい取組みを考える (自然との共生) (クラス単位で実施)	・ソーラークッカーを利用して料理を作り、自然エネルギーの活用について考える ・新聞記事発表(Eco な視点の記事) ・プレゼンテーションの役割分担 概要説明・事前学習1・事前学習2・新聞記者の出前講座・新聞記事から・まとめの6つ	・ソーラークッカー (ポップコーンづくり) 宿題 (新聞スクラップ) プレゼン企画用紙 実物投影機
3時限目 記者の視点から (共同通信社) (クラス単位で実施)	・取材の中から環境について考えた事例 ・プレゼンテーション作成に当たって指導 (興味を引く見出しなど)	・共同通信社
4時限目 記事をまとめる (他者に伝える) (クラス単位で実施)	・宿題の新聞スクラップの発表 ・スクラップした記事、学習で配布された資料、メモを活用してプレゼンテーションを作成する	・実物投影機 ・スキャナー
5時限目 思いを伝える1 (クラス内発表)	・宿題の新聞スクラップの発表 ・作成したプレゼンテーションを相手にわかりやすく伝える工夫を行う。	・実物投影機 ・プロジェクタ ・ノートPC
6時限目 思いを伝える2 (学年発表)	・他のテーマを学習した他クラスの人たちに分かりやすく工夫して伝える。また、しっかり話を聞く。	・プロジェクタ ・ノートPC



粉の様な砂に驚く生徒たち



廊下に掲示した新聞スクラップ

2. 授業の詳細

1時限目 「環境問題について考える」

目標

メディアリテラシーを身につける

「隣国」中国の間違ったイメージを取り除き、正しく理解する
中国の環境問題について学び、日本も影響していることを知る。

内容

中国のイメージ（生徒に聞く。）

今回の視察の様子（クイズなども活用する。）

最近の話題（尖閣モグラの危機）の紹介

内モンゴルの環境問題を紹介

環境保全の取組を紹介

インターネットを活用した情報収集の練習

練習として、「風が吹けば桶屋がもうかる」を検索させ、
正解以外にも様々な情報がインターネットにあることを
確認させる。

（情報の出所、真偽について考えさせる。）

新聞を利用した情報収集

（新聞から、自分のほしい記事を探し、まとめさせる。）

メディアの特徴を確認



訪問した砂漠
内モンゴルの砂漠



インターネット検索の様子

<ココがポイント>

視聴者・読者が興味を示すのは、マイナスイメージを与える内容が多い。そのような情報ばかりがすべてではないことを確認する。メディアのそれぞれの特徴を理解し、学習を行ってほしい。

課題の紹介（新聞等のスクラップ）

教師のスクラップの見本を提示

1992年環境サミットのスズキさんの発表の一部を紹介

生徒の感想

- ・実際に砂を触ると、思ったより粒が小さく、粉のようだった。これなら、黄砂として日本に飛んでくると思った。
- ・中国で使われている漢字が読め、だいたい意味もわかった。よく考えてみると漢字は中国から日本にきたのだからあたりまえのことだが・・・
- ・インターネットで中国の環境問題について調べて見た。あまり時間がなくうまく調べられなかったが見つめることができた。
- ・インターネットの情報は正しいものばかりではないと思った。

所感

最初の導入、中国のイメージを聞くとほとんどマイナス面を発表する生徒が多かった。授業前に予想はしていたが、これほど多いとは驚いた。教材研究をして望んだつもりだが、その場で答えに困る時もあった。興味ある話ができず、生徒が集中できない場面もあった。メディアリテラシーを高めたいと思い、様々な手段で調べ学習を行い、比較させたかったが、ちょっと内容が多すぎた。

2時限目 「地球に優しい取組みを考える」

目標

自然エネルギーの大きさ、無限性を体感する
地球に優しい取組みを新聞記事から探して発表し、知識を共有する
プレゼンテーションの役割分担を協力して行う

内容

ソーラークッカーを利用してポップコーンを作成

<ココがポイント>

簡単な仕組みの器具で、調理ができることを学び、
その用途について考えさせる

宿題の新聞記事発表(各班1名)

<ココがポイント>

最近の記事には省エネルギーに関する話題
が多い。記事を集めることでその多さを実感す
る。新聞スクラップは、実物投影機を使いモニ
ターに映した。



ソーラークッカーで調理

プレゼンテーションの役割分担(1人1分)

プレゼンシート	内容
学習の概要説明	テーマと学習の説明
事前学習 1	中国の環境問題など
事前学習 2	ソーラークッカーの利用
講師の授業から	講師の話をまとめる
新聞記事から	スクラップした記事から
新聞記事から	〃 (7人班のみ)
まとめ	学習をもとに地球に優しい環境宣言



新聞記事発表の様子

プレゼンシートは、プレゼンテーションソフト(パワーポイント)を使うのではなく、手書きのシートをスキャナーで読み取り作成させることにした。作成時間の短縮と、課題として家庭で取り組めるからである。

生徒の感想

- ・ソーラークッカーをする予定が、曇りのためできず、日を変更して行うことができた。電気やガスのない地域では有効な道具だと思ったが、天候に左右される点が不便だと感じた。また、私たちの周りには、使われていないエネルギーがたくさんあるんだなぁと感じた。
- ・ソーラークッカーで作ったポップコーンは、普通に調理したものと変わりがなかった。おいしかった。

所感

曇りのため延期したことにより、ソーラークッカーの欠点がよくわかったようだ。自然エネルギーだけであれだけの強力なエネルギーが出ることに驚いていた生徒が多かった。

新聞記事発表会では、最近新聞を購読していない家庭も多いと聞いていたので、集まるかどうか心配したが、まじめにやって来た生徒が多く安心した。新聞をあまり読んでいない生徒が多いことも驚きであったが、今回の取組みで少しでも新聞を読む生徒が増えればと感じる。

3・4時限目 「記者の視点から環境を考える」「プレゼンテーション作成」(3時限目は5時間で実施)

目標

共同通信社 神戸支局 松井記者の話から開発と自然保護について考える。
わかりやすいプレゼンテーションをするための工夫を学ぶ

内容

共同通信社 神戸支局の松井さんの講演

- ・共同通信社とは
 - ・香川県高松支社勤務時代から
早明浦ダムの貯水率が新聞の天気欄に掲載されている。
(香川県には大きな河川がなく、高知県にある早明浦ダムに依存している。断水が過去に何度も行われた。)
 - ・人口降雨実験に反対運動
(高知県はこのダムに5%しか水を依存していないので塩害などの可能性のある人工降雨実験に反対する)
 - ・バイオディーゼル(北条鉄道)の記事から
プレゼンテーションの作成
- わかりやすいプレゼンテーションするには

<ココがポイント> - 記者の視点 -

シート

見出しの工夫(記事、見出しの順に)

原稿

5W1Hが入っているか確認

情報の出所を明らかに



(社)共同通信社松井記者の講演



新聞を活用した授業の様子

<ココがポイント> - 教師からの視点 -

教室の後ろに座っている生徒からも見える文字の大きさ、配色などを考えてプレゼンシートを作成するように指導した。プレゼンシートはあくまでも補助的なもので多くの情報を載せすぎない。話の内容のほうが大事であることを伝えた。

新聞記事スクラップ発表会

<ココがポイント>

本校はNIEの研究指定校であり、6社の新聞を購読している。誰でも見られるように廊下に新聞を置いて、新聞を購読していない家庭の生徒にも新聞に親しみやすい環境を作った。並べて置くと、同じ事件でも、新聞社によって取り上げ方が異なることに気づいた生徒もいた。

生徒の感想

- ・水不足が深刻な地域の新聞では、ダムの貯水率を毎回載せていることに興味を持った。
- ・ダムの貯水率が低くても、水不足の影響の少ない自分の地域で降雨実験をするのに反対しているという話を聞いて、難しい問題だと感じた。

所感

新聞記事の中から、環境に関する記事がわかりやすくまとめてあり、改めて環境について考えることができた。毎日自宅に届く、男女を問わず幅広い年齢層で読まれる新聞ということで、わかりやすい記事を書くために苦労されている様子が伝わった。

5・6時限目 思いを伝える(クラス内発表・学年発表会)

目標

作成したプレゼンテーションを相手にわかりやすく伝える工夫を行う。(5時限)
他クラスの生徒に分かりやすく工夫して伝える。また、しっかり話を聞く。(6時限)

内容

5時限目

新聞スクラップ発表(まだ終わっていない生徒)
班内プレゼンテーションリハーサル(クラス内発表会の前に、役割分担、内容の確認)
クラス内発表(1班から順番に)

<ココがポイント>

発表原稿を前で読むのではなく、聞き手の方を見てしっかり話をする。教室のみんなが聞こえるくらいの大きな声を出すように指導した。



クラス内発表会の様子

代表メンバーの決定

学年発表会でプレゼンテーションするメンバーを、相互評価カードを用いて選ぶ。

6時限目

各クラスの代表がそれぞれのテーマで学習した内容をプレゼンテーションする。



学年発表会の様子

<ココがポイント>

クラス内発表会と同じ内容で発表するのではなく、「全く授業に参加していない他のクラスの生徒に伝える」というのを押さえさせたいので発表原稿を再考させた。また、できるだけ原稿を見ずに、自分の言葉で伝えるように指導した。

教室に戻り、自分たちがこの学習を通じて身についたと思えることを書かせる。

<ココがポイント> ~コピー機を使ってお手軽プレゼンテーション作成!~

最近のコピー機は、多機能になっており、スキャナー機能もついている。しかも ADF(オートドキュメントフィーダー)が付いているので、原稿をセットすれば数分で、数十枚のシートがデジタル化できるようになっている。これをフラッシュメモリーに入れれば、そのまま大型ディスプレイやプロジェクタで拡大して再生できる。また、保存もできるので、次年度の生徒への見本等にも利用できる。

生徒の感想

多くの生徒が、「とても緊張した。」と書いていた。プレゼンテーションすることが楽しかったという生徒も、少数ではあるがいた。

所感

学年発表会では、自分の担当したクラスの生徒は、ほとんど原稿を見ず発表している様子を見て感動した。中国の環境についてのプレゼンテーションで、「中国の環境問題がなぜ日本と関係があるのだろう。」と思っていた生徒が、今回の学習を通じてそれが誤っていることに気づいたと言っていた生徒がいた。「風が吹けば桶屋がもうかる。」と最初に検索したことの本当の意味に気づいてくれたようだ。

参考資料

・参考文献
 開発教育支援教材 『砂漠化する惑星(ほし)』 JICA 地球ひろば
 『兵庫教育 平成 22 年 12 月号』 兵庫県教育委員会
 『朝日新聞 NIE 特集 ののちゃんの自由研究』 朝日新聞社
 四国新聞社 朝刊 四国新聞社
 ・参考ホームページ URL
<http://w2.avis.ne.jp/~amane/> 工房あまね(ソーラークッカー製造元)
<http://www.shikoku-np.co.jp/> 四国新聞社

使用したプレゼンテーション(一部抜粋)

<p>中国紹介</p> 	<p>中国クイズ(これは何と読むでしょう)</p> <p>手机</p>  <p>ヒント 手の機械??</p>	<p>モンゴルについて</p> 
<p>北京といえば北京ダック</p>	<p>机は desk ではなく機械</p>	<p>内モンゴルの羊・ヤギ</p>
<p>カシミアブーム</p> <p>1着のセーターを作るのにカシミアヤギ4頭必要! たくさん取れないため・・高価</p>  <p>収入を増やすためたくさん飼</p>	<p>そうすると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過放牧 ・根まで食べる  <p>砂漠化がすすんでしま</p>	<p>太陽光・風力発電</p> 
<p>はやりのカシミアですが・・</p>	<p>日本にも責任があるのでは?</p>	<p>高速道路に沿って何十キロも続く</p>

生徒のプレゼンテーション(学年発表会で使用したもの)

<p>環境学習</p> <p>メディアから考える環境問題</p> <p>3年1組</p> 	<p>中国内モンゴルの石少漠</p>  <p>石少漠</p>	<p>ソーラークッカー</p>  <p>料理</p> <p>火事</p>
	<p>新聞スクラップ</p> 	<p>私達で空33</p> <p>STOP 地球温暖化</p> <p>大切な地球</p> <p>-まとめ-</p> 